

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
（１） いて 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などにつ	歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、または今後積極的に行っていこうという歯科医師がいるかなど、アンケートをとることができるか。	アンケートの結果、それぞれの医院でできることを記入した往診対応表がほぼ完成した。取りまとめた結果について、今後の活用方法や更新頻度などは検討したい。 ただし一般に広く公開するものではなく関係機関の資料として使用することを想定している。	訪問歯科診療の対応表は完成している。 更新については、当面年 1 回を予定している。 関係機関の資料として使用することとする。	対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報との間に不一致がみられるため、今後修正を行う。 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組みたいと考えている。 将来的には、歯科衛生士の配置がない歯科医院からの派遣依頼にも対応できるよう、人材バンクのような形で整備できるとよい。	高木（康） 委員 伊藤委員
（２） の実施状況などについて 薬剤師の訪問薬剤管理指導	訪問薬剤管理指導の活動状況の把握（施設/在宅など）、麻薬の取扱い、中心静脈栄養、IVH 機材、ポンプ、24 時間対応、日曜日の対応を積極的に行っているのかなど、アンケートをとることができるか。	アンケートの結果は、市や包括、保健などに設置して活用していただきたい。 49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 11 薬局である。平成 28 年 4 月の制度改正後、健康サポート薬局に関する講習会などが行われる予定であるが、市内で基準を満たすであろう薬局は 2 薬局である。			木全委員

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(3) 各介護保険サービス事業所 についての情報共有について	各事業所において、巡回型、吸引行為、経管栄養、インシュリン注射、吸引、膀胱カテテルの交換、ガン末期患者や困難ケースの受け入れ、看取りなど専門性や得意分野などの整理ができるか。	サービス事業者連絡会で作成している「介護保険サービス事業所一覧」を情報共有のベースに、必要な情報を追記した形で「この事業所はどういったサービスができるか」が分かる冊子を作成する。 追記したい項目について、各事業所にアンケートを実施した。9 割以上から返答が来ており、今後作成を進める。 8 月末ごろには情報を更新し、10 月には新しいものを配布できればと思っている。 作成後は、年 1 回更新する。	事業所一覧については各事業所の医療対応情報を加えた形で平成 28 年 7 月に完成した。市内の介護保険事業所に配布するとともに、市やふれあいセンターの窓口を設置している。 今後も年 1 回の刷新を予定しており、新しい情報の提供に努める。	本当に必要とされている情報が入っているか、実際に活用した上でヒアリングが必要。 また、医療機関へ配布することも必要。	岡田委員 大野委員 田中委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(4) 研修について	i) 医療関係者において、歯科、薬局を含めて研修を行えると良い。	平成 27 年度より「医師とあゆむ勉強会」を開催している。平成 28 年度は在宅での診療報酬、訪問薬剤、ICT、医療依存度の高い訪問入浴、訪問看護と医療機関の意見交換のテーマで実施する。 訪問診療を行う医師の意見を聴くために各医療機関を訪問する。また医療機関向けに、訪問診療に関する情報を公開するためのアンケートを実施する予定。	平成 28 年度の「医師とあゆむ勉強会」は予定どおり開催した。 第 2 回の協議会以降は ICT の勉強会（9 月 14 日）、医療依存度の高い訪問入浴（11 月 9 日）について実施。平成 29 年度も同様に行う。 在宅医療導入研修として、終末期に関わる援助や医師の意見交換会を行う予定。 アンケートの集計結果については、市に提供するとともに相談窓口でも活用する。 今後は、第一段階として眼科・耳鼻咽喉科の情報を取りまとめるとともに、医療機関から訪問看護の紹介を依頼された場合の対応マニュアルなどを作成し、問い合わせにスムーズに対応できるように整備していく。	勉強会などを継続して行うことが大切であるが、今後こういった形で継続していくのがよいのか。 診療所・クリニック間の連携に向けて意見交換会を開催し、平成 30 年度も継続していきたいが、医師の参加が少ないため、時間の工夫や内容の選定が必要。	磯村委員

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(4) 研修について	ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。	お互いの顔が見える連携を大切にするため、10月4日に座談会を開催し、訪問看護を周知するとともに、ケアマネジャーと意見交換を行う。それぞれの立場から忌憚のない意見をいただくことにより、互いの専門性や弱点を受け止めつつよりよい連携に向けて話し合う。	10月4日にケアマネジャーと訪問看護の座談会を開催し59名が参加した。グループワーク形式で、訪問看護についてコストや持っているイメージについて意見交換を行った。 12月5日に訪問看護とケアマネジャーの合同研修会を開催し50名が参加した。看護師の参加が少なかったが、お互いの役割が確認できた。 3月15日の四者連絡会で、平成29年度の研修の実施時期について話し合った。	ケアマネジャーから「訪問看護の導入のタイミングがつかめない」という意見があり、より多くのケアマネジャーに研修会への参加を促すことが必要。 また、今回参加できなかったケアマネジャーにも情報共有を行うことが必要。 いずれの会も訪問看護師の参加が少なく、具体的な連携体制を考えるまでに至っていない。	志津委員 大野委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員
	iii) 日程が重ならないように調整が必要。	介護支援専門員連絡協議会のホームページにスケジュール表を掲載している。行事の概要を介護支援専門員連絡協議会に連絡すればホームページに掲載できる。 活用の頻度の検証や、いつまでケアマネジャーの会のホームページに掲載するか検討が必要。	平成28年度から介護支援専門員連絡協議会のホームページに情報共有用のスケジュール表を掲載している。 前半は各機関からの情報提供があったが、後半はほとんど連絡が来なかった。	この情報共有用のスケジュール表の効果がどうだったのか、今後の必要性について検討する必要がある。	田中委員

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(5) わた史ノートの普及啓発について	わた史ノートをただ渡すだけでなく、包括やケアマネジャー、民生委員、区長など、話すことのできる人を養成できると良い。	各地区の民生委員を対象に、10 月と 11 月で 30 分ほどわた史ノートが作成された理由や使用方法を説明する。 平成 29 年度には、地域包括支援センターの新規開設も含め改訂する予定。改訂の際には、民生委員から挙げた意見なども反映できればと考えている。	10 月から 11 月にかけて、各地区の民生委員を対象にわた史ノートが作成された背景などについて説明した。 平成 29 年度に新しく開設する地域包括支援センターの情報を加えた内容に改訂する。 4 月 15 日号の広報に、市民レポーターによる取材記事が掲載予定。	内容の見直しの必要性を検討するにあたり、実際に利用した人の声を聞く必要がある。また民生委員にとったアンケートも活用しながら検討する。	渡邊委員 大野委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員 高木（大）委員

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(6) 療法士の 取り組み について	療法士の今後の取り組みについて、具体的に誰がどのようにやっていくか計画を出せると良い。	平成 27 年 9 月に連絡会を設立。 今まで体操教室を 9 回実施した。参加者の人数や状況、会場の状況に応じて臨機応変に工夫している。毎回参加者にアンケートをとり、次回以降につなげている。 サロンでは参加者の関心が高いことがうかがえたが、マンパワーのことや市の出前講座との兼ね合いもあることから、どこまで受けられるかは検討が必要。 県の理学療法士会から連絡会に「市と県医師会への窓口になってほしい」と依頼があった。 脳卒中などの病気により、仕事ができない状況の方との意見交換や自分たちでの楽しみづくりができるような場づくりについては場所が課題となっている。	前回の会議以降、体操教室を 5 回、介護教室を 1 回実施、サロンへ 3 回出向いた。また認知症介護家族交流会や地域ケア会議にも各 1 回出席。 保健師の訪問に 2 回同行し、ケアマネ向けに講義・演習を 1 回行った。 県の PT、OT、ST の 3 士会により情報センターが設置され、地域包括ケア推進委員会のバックアップ体制も整った。 交流の場は、場所の設定などに課題があり実現には至っていない。	・各療法士の参加を促す方法（マンパワーの確保） ・事務局スタッフが兼務で多忙のため、負担の軽減が課題 ・市と連絡会、情報センターとの連携方法	大橋委員

概要	詳細	平成 28 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(7) 病院とケアマネジャーの連携について	病院とケアマネジャーの連携について連絡方法など、意思の疎通を図っていけると良い。	【介護側】 「医療と介護の連携シート」を使った連携の仕方について、6 月 17 日に意見交換会を行った。連携シートの不完全な部分や課題だけでなく、連携シートをどんどん使っていくという建設的な意見も出された。 今後は、この意見交換会の内容を活かして、ケアマネジャーへの連携シートの普及啓発を行う。さまざまな切り口からの啓発により連携シートを小牧の定番にしたい。	連携シートができた 6 月は啓発活動に積極的に取り組んできたが、その後はケアマネジャー任せになっている。 病院から活用状況について情報提供していただきたい。		田中委員 大野委員
		【医療側】 6 月 17 日に意見交換会を実施してから「医療と介護の連携シート」の利用が増えたと感じている。今後も、在宅での生活状況を把握してリハビリに活かしたり、退院困難な患者を地域につなげたりするためのツールとして活用したいと考えている。そのため、病院内での活用方法についても考えたい。	平成 27 年度、28 年度それぞれの連携シート活用状況 →別紙により報告	「医療と介護の連携シート」の院内での周知は少しずつできてきている。 市町によって様式が異なるため、病棟や外来で混乱が起こることがある。様式が統一されていることが望ましい。	菅沢委員
(8) ICT の構築について	小牧市において、統一した形で ICT を構築できると良い。	医療介護総合確保法に基づく愛知県の計画として在宅患者情報を共有するシステムを平成 27～29 年度で整備することとなっており、当協議会においてもご意見をいただきながら整備を進める。今後、運営主体や契約についてなど、運用開始に必要な事項を決定していく。	在宅医療サポートセンターが開催する「医師とあゆむ勉強会」や医師会理事会において、システムについて説明した。 今後、市が考えた運用ルールについて関係機関からご意見をいただき、内容の修正などを行う。	関係機関からご意見をいただき、利用規約やセキュリティポリシーを定める。 システム構築のための準備を開始する。	高木（大）委員